

塩浜1丁目護岸

塩浜護岸は、昭和40年代に工事され、塩害による鋼矢板の腐食や老朽化が進み、危険な状態でした。塩浜1丁目護岸では、市の要望を受けた県が主体となり、約

600メートルの護岸整備を進めています。市民が海に親しめる展望デッキも計画されており、平成26年の完成に向け工事が進んでいます。



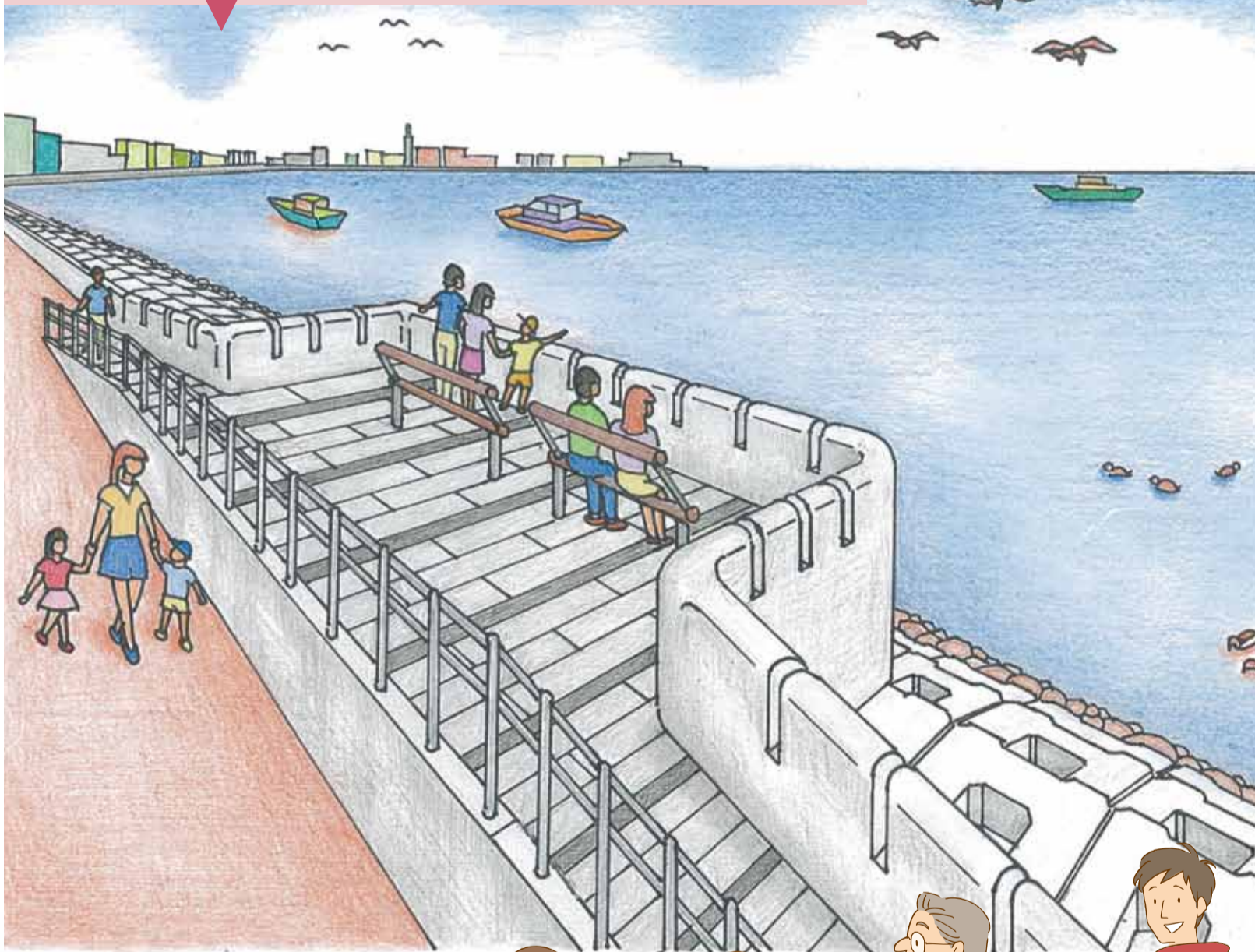
海と親しむ 市民が憩う街づくり



2月現在の整備状況



整備前



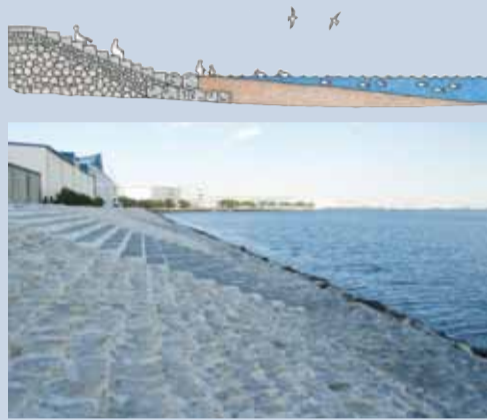
▲展望デッキのイメージ

三番瀬の海を生かした街づくりを目指しています。



塩浜2丁目護岸

塩浜2丁目護岸では、自然石を使用したなだらかな形状の護岸とし、また市民が親しめる海辺となるよう、階段式の護岸を2カ所設けています。さらに、護岸の前面には、三番瀬の再生と身近な海とのふれあいを目指し、砂付けによる干潟の再生に向け、県と協議していきます。



▲100m区間の階段式護岸

塩浜地区の護岸整備が進むなか、その背後地の街づくりも官民協働で段階的に進めています。三番瀬と行徳近郊緑地に接する地理的特性や交通条件の良さを生かした、市民が海に親しめる街づくりの実現に向けて、平成17年8月に「塩浜地区まちづくり基

本計画」を策定しました。先行して進めているJR市川塩浜駅南側の約12ヘクタールの区域では、市と関係権利者で土地区画整理事業により基盤整備を図り、商業・宿泊・娯楽などの施設整備や公園整備などを進めていきます。



▼海に親しめる場のイメージ

海に親しめる場

これまで「塩浜地区まちづくり基本計画」などでは、三番瀬の海の自然環境を生かした環境学習の場を区域西側に位置づけていました。JR市川塩浜駅南側の土地区画整理事業に合わせ、これを、区域東側に計画する公園と海側に整備されている階段式護岸や、護岸の前面に干潟再生を目指すエリアを一体的に活用しながら、市民が海に親しめる場として見直します。

JR市川塩浜駅 南側の 街づくり



塩浜地区は、市民が海に親しめ、